

子どもたちの目に映った 美郷町の水環境

美郷町内の小中学校では、町の財産である水の大切さを子どもたちに知ってもらうために、水環境に関する学習に積極的に取り組んでいます。今回、名水シンポジウムで学習発表を行った千屋小学校と六郷中学校の取り組みをご紹介します。

【千屋小学校】 ビデオテープで学ぶ 「つながること つなげること」

千屋小学校の校庭には、美郷町の魚であるイバラトミヨや他の水生生物が観察できるビデオテープ（※）があります。このビデオテープは「ドリームトープ」と名付けられ、総合的な学習の時間などに学びの場として使用されています。

ドリームトープは、地域の方々やボランティア、児童の保護者など多くの人々の協力を得て、毎年春に清掃が行われます。清掃後には、ボランティアの方から水に関する話を聞き、生活排水を川に流さないようにすることが海を守り、結果的に地下水を守ることがつながっていることを学びます。自然

【六郷中学校】 故郷を見つめて 見えてきた、これまでとこれから

六郷中学校では「総合的な学習の時間」に2年生65名が10班に分かれ、「故郷を見つめて」をテーマに様々な分野の調査研究を行っています。今回、

名水シンポジウムで発表を行ったのは「清水」を調査研究テーマに選んだ6名でした。

「清水」を調査研究するきっかけとなったのは、地域の方から昔の座頭清水の様子について話を聞いたことでした。以前の座頭清水は現在よりも深くイバラトミヨの姿もたくさん見ることができたことを知り、他にも知らないことがないか調べはじめました。

現在とは異なり、十分な水道設備が無かった時代は、水質の良い水を手に入れることができた土地に住むことが重要でした。人々は水を求めて集まり、人と物が交流して町が発展したと考えられます。水に恵まれていたため、清涼飲料水や日本酒作りが盛んとなり、町を特徴づける特産品にもなりました。

地下水は、現在も生活用水や農業用水に使われ、町を成り立たせるには欠かせないものとなっています。そして、美郷町の観光資源の一つにもなった今、

千屋小学校学習発表 『つながる つなげる』

千屋小学校からは6年生の大川瑠成さん、小松凌弥さん、高橋駿さん、藤嶋悠力さん、嶋津葵さん、高橋琴美さん、高橋美月さん、畠山寧々さんが学習発表を行いました。4年生の時に参加した七滝山での植樹の様子や、交流を続けている東京都港区の御田小学校から届いたビデオレターの紹介などを織り交ぜ、日ごろの学習の成果を元気に発表しました。



■名水シンポジウム学習発表（7月1日）

六郷中学校学習発表

『私たちの暮らしと清水 ～創造と共生～』と題して学習発表を行った六郷中学校2年「清水コース」のみなさんにお話を伺いました。



青池 優さん

「お酒に興味を持ったことがきっかけで清水について調べました。調べてみると、食べ物や飲み物だけではなく、農業用水や生活用水に利用されていることが分かって、調べてみて良かったと思いました。」

梅川 孔平さん

「清水がサイダーや酒造りにどんな風に使われているのかを知りたいと思いました。地下水が農業用水にも使われていることも分かりました。清水を汚すと生物が住めなくなってしまうので出来るだけ汚さないようにしたいです。」



伊藤 純那さん

「清水の詳しい情報を知りたくて調べました。六郷の清水には色々な使用方法があり、地域の活性化には欠かせないものだと分かりました。これからは水を使いすぎないようにしようと思いました。」



大隅 啓さん

「清水は身近な物なので何でも分かると思ったけれど今回調べてみたら知らないことがたくさんありました。紙漉座清水は以前は和紙づくりに使われていて、その和紙が明治天皇に献上されていたことは新しい発見でした。」



高橋 はるなさん

「昔の清水は今の形とは違って自然にできた形のままでした。ハリザッコも減ってきているので、雑排水などを流さないようにしようと思いました。今回のサミットで六郷は水に恵まれた土地だと改めて感じました。」



須藤 峻丞さん

「小学校のときも清水を調べたことがありますが、調べれば調べるほど分からないことの多さに気づき、今回もテーマに選びました。友人たちと一緒に協力しながら作業することの楽しさを感じました。」



1 六郷中学校「清水コース」のみなさん



2 特定非営利活動法人アサザ基金の飯島博代表理事を講師に迎え、ドリームトープにいる生物を学習（6月22日）



3 千屋小学校ドリームトープの清掃（5月17日）

「両校の学習発表から」
水資源に恵まれていることを
忘れないようにしましょう

両校の学習発表には、清水や地下水が美郷町に住む人々にとって欠かせないものであるというメッセージが込められています。水は、自然環境と私たちをつなぎ、地域に暮らす人と人をつなぎ、過去から受け継がれ未来に引き継いでいくべき貴重な財産であるということを改めて示してくれました。子どもたちの目を通して再認識できたことを、美郷町民みんなの教訓としていかなければなりません。

美郷町を象徴する存在として大切にしていかなければなりません。



■名水シンポジウム学習発表（7月1日）